

# 予 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

<地域振興部、観光局>

開催日時 平成23年10月6日(木) 10:03~11:27

開催場所 第1委員会室

出席委員 10名

安井 宏一 委員長

森山 賀文 副委員長

小林 茂樹 委員

猪奥 美里 委員

太田 敦 委員

鍵田忠兵衛 委員

畠 真夕美 委員

神田加津代 委員

荻田 義雄 委員

和田 恵治 委員

出席理事者 稲山 副知事

杉田 総務部長

田中 地域振興部長

畑中 南部振興監

中山 観光局長

ほか、関係職員

議 事 9月定例県議会提出議案について

傍聴者 なし

<会議の経過>

○安井委員長 それでは、皆さんおはようございます。

本日も元気でよろしくお願いたします。

ただいまから本日の会議を開きます。

荻田委員はおくれるとの連絡を受けておりますのでご了承願います。

傍聴の方はございません。

それでは、日程に従いまして、地域振興部、観光局の審査を行います。

議案について、南部振興監、観光局長の順に説明を願います。

○畑中南部振興監 それでは、南部振興課所管所管の平成23年度9月補正予算について説明をさせていただきます。

お手元の「平成23年9月県議会提出補正予算案の概要」をあけていただきたいと思います。

11ページ、(4)の地域産業の支援の中で、南部地域緊急観光支援事業でございます。また、緊急観光プロモーション事業といたしまして、台風12号による災害によりキャンセル等影響を受けております地域の観光パンフレットの作成や、大手旅行会社への旅行雑誌への観光情報の掲載、インターネットを活用した過去情報の発信、観光PRイベント等に取り組み、台風12号による宿泊客の減少に対応してまいりたいと考えてございます。以上でございます。どうかご審議よろしくお願いいたします。

○中山観光局長 それでは、引き続き観光局所管の事業について説明します。

「平成23年9月県議会提出補正予算案の概要」11ページ、(4)地域産業の支援、南部地域緊急観光支援事業に二つの事業を計上させていただいています。南部地域復興支援プレミアム宿泊旅行券の発行事業です。

この事業は、県南部地域の観光による復興を図るため、宿泊を伴う観光客の誘致を早期に進めていこうとするものです。プレミアム宿泊旅行券は、宿泊を伴う観光客を南部地域に誘致を進めるもので、額面1万円の宿泊券を県が2,000円負担して8,000円で県が販売することにしております。この販売については、県が南部地域を支援する多様な団体などを募りまして、官民連携の取り組みとして進めていきたいと考えております。

次に、会議等開催支援事業につきましては、県南部地域への会議開催を誘致するものです。会議参加者から南部地域が安全・安心であることが口コミ等で広がることにより、南部地域の宿泊を伴う会議を一層誘致していきたいと。この参加者による地域での現金収入の拡大も図ろうとするものです。南部地域でこのような新しい会議が開催される、継続する会議もあるわけですが、開催の経費の一部を助成するものであります。両事業とも観光による被災地の早期回復を進めて、早く復興していきたいということでこの事業を計上させていただきました。審議よろしく申し上げます。

○安井委員長 ただいまの説明またはその他の事項も含めまして、質疑等があればご発言を願いたいと思います。なお、理事者の皆さんには、委員の質疑等に対しまして、明確かつ簡潔に答弁をお願いするものでございます。

それでは、ご発言のある方は挙手を願います。

○和田委員 早くしっかりと申し上げたら緊張のあるご答弁をいただけるかと思えます。

観光振興にかかわりまして、特に、記紀・万葉プロジェクト事業についてお尋ねをいたしたいと思えます。

6月議会、あるいはそれ以後もいろいろと、一般質問をしたり、関係部局に連携をしながらいろいろと尋ねてまいりました。記紀・万葉プロジェクトについては、観光関係方面は非常に期待を寄せている状況が感じ取れております。そこで、この記紀・万葉プロジェクトについて、6月議会での一般質問の知事答弁がありましたけれども、まずは、この記紀・万葉プロジェクトとは一体何なのかをしっかりと県民あるいは全国民の皆さんに情報発信をしながら知っていただくことが大切だと答弁をされております。確かにそのとおりでございます。古事記、万葉集、言葉は知っているけれども、一体何年に編さんされたのかとか、あるいは学術的な対象になったりということで、そんなに観光とのかかわりで動いてくることはあまりなかったように思われます。したがって、観光振興に係る記紀・万葉のおもしろさをわかっていただく取り組みは重要だと思っております。

ところが、その記紀・万葉プロジェクト立ち上げて、さあこれから頑張ろうということで、プロジェクトチームは非常に頑張っていていただいておりますが、実はこの記紀・万葉プロジェクトは、平城遷都1300年祭記念事業とこういって銘打った一つの商品、わかりやすく言えば。コマーシャル商品名、名称がございました。この記紀・万葉プロジェクト事業、来年の古事記編さんから日本書紀献呈まで9年間の7次にわたる事業になりますから、単に記紀・万葉プロジェクトという組織内の名称だけで世間に打って出るには、ちぐはぐな感じがしないでもない。それで、記紀・万葉プロジェクト事業の名称が必要ではないかと思うのです。庁内では記紀・万葉プロジェクトでいいと思えます。機構組織の名称だと理解しております。しかし、事業そのものは記紀・万葉事業と言ってもいいし、何であってもいいけれども、通称、愛称、コマーシャル商品の名前をつくって売り出していくことでわかりやすいコマーシャル名称をつけた事業展開を考える必要があるのではないかと考えております。このことについていかがお考えなのか、お示しいただきたいと思えます。

次2点目、この記紀・万葉プロジェクトの事業を推進、成功をさせようということについては、市町村の協力は欠かせません。歴史素材を集めるにしても、県としては地域に見えている、全国に見えているところを資料収集し発掘し情報を送り出すわけけれども、隠れた大事な、そしてその地域にとっては本当にお宝のように大事にしているものもある

はずだと思うのです。記紀・万葉プロジェクト事業を推進するについては、観光振興であるとともに、同時にまちづくりということに伴っての事業推進でなければいけないのではないかと思います。その点、これはソフト事業でやりますと言ってるいるけれども、まちづくり推進局との連携でやっていくということをお考えであるのかどうか。この事業を進めるに当たってソフト事業ではあるけれども、そのようなかかわりでどんどんこれから進めていくことになるのかどうか、その点の基本的な方向というものをお示しいただきたいと思うわけでございます。

そして、さらに言えば、強力な地域の記紀・万葉プロジェクト、うちはこれで県と連携してしっかりと観光振興をがんばると、例えば桜井市が、誘致します、お客さんどんどん引っ張り込むように頑張ります。これは県の事業にとってはまさにねらい目であってありがたいことだとすれば、地元で推進の記紀・万葉プロジェクト、例えば、桜井記紀・万葉プロジェクトチームというものが発足したならば、それぞれの地域との協働で、この事業は奈良県も参加した協議会的なもので推進していくことが必要ではないかと思うわけですね。だから、まちづくりをやっていくと、その町に観光客を誘客してくとことも含め、そのような団体が立ち上がり、よしとするならば積極的に県として協議会の立ち上げの中に対等の関係で、協働という作業という形でこの事業を進めていくということは考えられないのか。知事も協議会はあってもいいのかとはっきりと答弁されました。改めて作業する記紀・万葉プロジェクトの方向をいろいろとお聞かせいただきたいと思います。

それから3つ目、この記紀・万葉プロジェクトをやるわけだけれども、来年いよいよ古事記生誕1300周年とか、1300年祭とか、そういうことになると思うのです。古事記1300年祭。大々的にこれは皆さんに打っていかないことには、記紀・万葉プロジェクトの9年の最初がつまずくとだらだらといくことになるのではないかと。めり張りをつけて、来年の古事記編さん1300年、誕生祭か事業祭か知りませんが、そういうもの思い切った形で企画されてはどうだろうかと思えます。その点どのように記紀・万葉プロジェクト事業として取り組まれようとしているのかお聞かせいただきたい。

最後の4点目ですが、これもうくどいほど申し上げておきたいと思うんです。それは、記紀・万葉プロジェクトは各地域の記紀・万葉にかかわるお宝をやっぱり紹介してくわけです。お宝はいいんですけども、そのお宝の器となる地域環境、観光環境が貧しければ、くどいようですが行ったお客さんが何だこれはとなってしまうと、もう二度と来るかの場合によってはそんな話が出ないとも限らない。そうなれば大変なことになる。そこで、記

紀・万葉プロジェクトは強い権限と言えはちょっと表現が適切でないかもわからないけれども、記紀・万葉プロジェクトで行っていく作業の中で、本当にお宝をみんなに認められなければいけないけれども、環境が悪いとするならば問題提起をしていく。問題提起を受けた部署はそれを整備をしていく、こういう形で強い連携が必要ではないか。したがって、記紀・万葉プロジェクトが浮いたような形で作業、事業を取り組んでいくのでは、これでは記紀・万葉プロジェクトの立ち上げた理由が成り立たない。観光立県としてやっぺいこうというならばそれだけではいかない。記紀・万葉プロジェクトは、まさに観光振興のかなめ、情報源だと。各観光振興の環境整備をするための、情報源であるというぐらいの認識のもとに、ここへ飛びついて、どうすれば観光のまちづくりができるのかという見方を持ち連携をする。それほどに記紀・万葉プロジェクト自身が自覚をして全町内に我々は観光振興のかなめだというぐらいの気持ちで取り組みをしていく必要があるのではないかと。受ける方もそのようにしっかりと連携をしていただき、そしてハード整備、ソフト整備をやっぺいっていく必要があるのではないかと。そういう意味で、記紀・万葉プロジェクトチームの存在というもの、そしてその意義で全庁的な連携が考えられているのかどうか、このことについてお尋ねをいたしたい。以上でございます。

**○中山観光局長** 記紀・万葉プロジェクトということですが、プロジェクトといいますのは、一つの目的を達成するために複数の方が同じ目的で行動など起こしていくことだと思ひますが、そういう観点で具体的な事業を立ち上げましたら事業名を付して進めていきたいと考えております。委員がおっしゃったように、わかりやすく親しみやすい、これが一番の記紀・万葉プロジェクトの推進ポイントだと思ひますが、その中で、県内ほか関係の地域が日本全国にありますので、そういう地域とも連携しながらそういう展開をしていきたいと。

この記紀・万葉プロジェクトは、委員もおっしゃっていただきましたが、来年が古事記完成1300年、2020年が日本書紀完成1300年ということですので長期的なプロジェクトになると。その中で、それぞれ特徴的な事業もつくり上げて事業名をきっちりと付すわけですが、それとこの対象区域が県内全域、日本は全国ということで、テーマ性とかストーリー性とか、そういう観点でも展開をしていきますので、それにふさわしい事業名を付して、来年が古事記イヤーということでスタート年になると認識をしておりますので、そういう観点で進めていきたいと思ひます。事業の進め方については、担当課長から説明します。以上です。

○村上ならの魅力創造課長 和田委員のご質問の中の2番目の中には、前段がまちづくり推進局との連携を考えているのかという部分と協議会、熱心に取り組む団体との連携についてのご質問でございましたので、その前段の連携につきましては、観光の基盤整備で連携を図っていくべしではないかというのが4番目にごございましたので、その2番目の前段とそれから4番目を整理させていただいてよろしいでしょうか。

○安井委員長 はい。

○村上ならの魅力創造課長 それでは答えさせていただきます。

記紀・万葉プロジェクトに関する取り組みに熱心な地域と地域単位で構成をされるNPO団体のような団体と組織を一体的に協議会というようなものをつくったときに、積極的に参画すればいいのではないかというご提言だと思うのですが、地域主体で結成された記紀・万葉プロジェクトに関する協議組織につきましては、現在も、大和郡山市の地域団体が主体となった古事記1300年紀事業実行委員会に県からも委員として参画いたしております。県、地域が連携した効率的な情報発信を行うため、今、同委員会とその発信の時期とか手法について調査を進めているところであります。また、別の市町村、具体には田原本町でございますけれども、先日同様の委員の参画依頼も来ておりまして、今後とも地域主体で結成される組織とは積極的に連携して、効果的な事業推進を進めてまいりたいと考えております。

3番目ですけれども、2012年の古事記1300年の事業について、地域と協働していく中でどのような事業推進、思いきった企画があってもよいではないかというご答弁だったと思いますけれども、観光局長が申しましたように、来年古事記1300年を迎えるわけですけれども、まずことしの10月22日には明日香村で、来年3月11日まで延べ9回にわたり、例えば、10月22日は飛鳥京観光ボランティアガイドが、それ以降、高取観光ボランティアガイド、橿原市観光ボランティアガイドなど地域のボランティアガイド、NPO法人になっているところもありますけれども、主体となって記紀・万葉ウォークを開催する予定になってございます。また、来年1月には、古事記完成1300年を記念いたしまして、複数の他県、現在、島根県などと調整中でございますけれども、連携をいたしまして、首都圏でもシンポジウムを開催し、情報発信をしていきたいと考えております。これらを皮切りに、県内外でさまざまな事業を開催予定もしくは支援していきたいと考えております。また、現在33市町村との連携について協議を進めているところでありまして、これまでの協議の中だけでも桜井市で検討をされている古代ヤマトのルーツを

探るなど、樞原市、明日香村、高取町などで、地域が主体となったイベントを50以上実施を計画されておりまして、県も積極的に支援していく方向でございます。記紀・万葉を中心とした地域資源をテーマにしたイベント等の効果的な実施に向けまして、市町村と協働、協議を深めながら進めていく所存でございます。

最後のまちづくりは、観光基盤整備、トイレ、アクセスその他あると思うんですけれども、記紀・万葉に関する歴史的な文化遺産の収集、発掘だけではなくて、それらプロジェクトを進めていく中でそういう基盤整備、まちづくりを連携する必要があるのではないかとこのご質問だったと思うのですけれども、記紀・万葉プロジェクトを推進していく中で、単なる情報発信だけではなくて、ハード整備とも連動していく必要があると考えております。現在、土木部、農林部、教育委員会などの各部で構成していただいております記紀・万葉プロジェクト検討委員会と、先ほど頑張っているとおっしゃっていただきました同推進チームが各部局から出ていただいております、それぞれの部局でどのような工夫をすれば記紀・万葉プロジェクトに関連した事業を効果的に展開できるかということを議論させていただいております。今後、県庁全体で取り組んでいかせていただきたいと思います。以上でございます。

**○和田委員** 今、答弁をいただきまして、大変しっかりと頑張ってやろうという姿勢を見させていただきました。楽しみに期待できる事業かと受けました。

その中で、一つだけ気にかかります。9年にもわたる長いこの記紀・万葉プロジェクト事業でございますから、事業の具体的なものについては具体名があると思います。首都圏でフォーラムを開くとか、何々フォーラムとかになると思うのです。だから、私が申し上げるのは、この9年の長きにわたりそれにたえ得る、9年間定着し、それをずっと使い続けるテーマというか、事業の冠というかコマーシャル名称を持っていけばいいのではないかと。よりそれがわかりやすく皆に訴えるものになるのではないかと。それぞれの事業を個別に、次の事業はこれをやります、次の事業はこれです、そんな細切れにやると9年間の長きにわたる事業はそれこそ分散してしまう。時には間があいてしまう、飽きられる、いろんなことがあると思うので、9年間こういう形でやりますというその名称、これを尋ねたつもりなので、この点についてはそう考えるのか考えないのか、検討するのか、お示しいただきたい。

もう一つ、この古代の主要な舞台は平城京の前ですから、大ざっぱに言いますと藤原京その前の飛鳥京、そして大和政権、桜井市とこうなるわけです。そして、推測ということ

になりますが、この邪馬台国、卑弥呼となってくると思います。ですから、この流れの中で、やはり桜井市は400年ほどの長きにわたっての大和政権というところがあったところだから、今は殺風景な状態だけれども非常に多くの宝が眠っております。古事記、万葉にかかわる史跡あるいは記念碑、そういったものがたくさんあるわけだから、桜井市が一生懸命に今頑張っって掘り起こしておりますので、先ほどウオークの話が出たときに、橿原市、高取町、明日香村が出たけれども、桜井市が出ないのです。桜井市がぼんやりしているのかもわからない。少し寂しい思いをしました。しかし、その桜井市も、今、燃え始めております。平城遷都の以前の歴史ということで、ぜひともこの地域を中心として、桜井市も含めて展開をしていってほしいと。これは展開という意味では桜井市も入れる、これは要望ということにさせていただきます。先ほどの名称についてお願いいたします。

○中山観光局長 名称ですが、奈良県が日本に世界に存在感をアピールできるという観点で名称は検討していけばいいかと考えております。それにふさわしい名称があれば打ち出していくということで、県の独自性を発信していきたいと思っております。以上です。

○神田委員 おはようございます。

二、三点質問させていただきます。先ほど説明いただいた中から先に教えていただいたのですが、プレミアム宿泊旅行券ですが、これは奈良県以外の方しか使えないのか、それとも県内の人も協力支援をしなければという強い気持ちで利用できるのかを確認をさせていただきますと思います。

それと、会議等開催も同じようなことですが、これは、1回の参加者20名以上というのは1回の会議が20名以上ということなのか。細かいことですが確認をさせていただきますと思います。

きょうの説明の中ではそれくらいです。その他で、二、三、ことしの予算書の中に九州主要都市への観光キャンペーン実施と載っておりますけれども、ことし福岡県の道の駅に視察に行きましたときに、偶然中山観光局長がそういうプロモーションをしておられるというのでお会いいたしましたけれども、一緒に県庁も行かせてもらったということがあるので、その成果とそしてこれからは他府県へのそういうプロモーションを続けていくのか。3月11日の東北大震災で奈良県も観光客がどれぐらい減っているのかというのを知りたいですし、観光客の増減、去年は多かったので比べたらいけないと思っておりますけれども、平年と比べてどんなぐあいなのか、そういう意味でもこの先ほど言われたプレミアム宿泊旅行券は大変いいアイデアだと思っておりますので、その辺を聞かせていただ



きたい。だから、3月11日の東北大震災から奈良県の観光客も減っているのか、そして、九州の主要都市へのプロモーションに行つてその成果、それから、また今後というのを聞きたい。

それと、もう1年になりますけれども、昨年9月に代表質問をさせていただいたときに、橿原市の旧耳成高校跡地の利用について、知事から答弁をいただきました。あれから1年ですけれども、JAに主体が行つてますけれども、JAも今地元でそのための説明会を、橿原市はもう終わったようですけれども、順次開いていってもらっています。その中で、物産直売所は、常任委員会で聞くことができ聞かせてもらっているのですけれども、あそこは3つに分けて、一つは農産物の直売所、一つは観光の拠点地、そしてレストランと大きく3つの事業をされると決まっておりますけれども、観光案内所について今どのような進みぐあいなのか。農産物直売については、もうJAは得意中の得意だと思いますけれども、ちらっとJAとお話しさせていただいたときにも、奈良県の観光については、県の大きな支援が必要だということもありまして、直売所、旧耳成高校跡地の活性化のためには県のバックアップ、あるいはいろいろな面で協力は必要不可欠なものだと私も思っておりますので、特にこの観光案内所について、観光について今具体的にどう協力しているか、進めているかをお伺いしたいと思います。

○中山観光局長 今ご質問ありました4点ですが、まず、プレミアム宿泊旅行券。これにつきましては、やはり県内の方はもちろんのこと県外の方も利用していただきたい。実は、奈良県民の統計ですが、観光統計では、全国でも、県民の方が県内旅行するということ、他府県と比較したら少ないですので、ぜひこの機会に支援するという観点も込めて県内旅行に行つていただきたいとお願いしたいと思います。当然、県外、東京都でも販売しようかと思えます。

それともう1点、会議の支援ですが、20人以上というのは1回の会議ということで考えております。これも例えば大阪府でしようとしていた会議が送迎費とか、会場使用料とかそのあたりを補助対象にしていますので、それも支援していただくという気持ちで、それ以外の飲食代とかそういうのは皆負担していただくわけですが、そういう観点の補助金です。

それと、ことしの7月に行きました九州観光プロモーションですが、議員に参画していただきましたので、大変盛り上がりました。ありがとうございました。

観光プロモーションといいますのは、まずプロモーションだけの成果でいきますと、パ

パッケージといますか、要はその場所、都市部へ行ってチラシだけ配るのではなくて、あ  
のときは当時、前日に福岡県庁、福岡市役所を表敬訪問しまして、熊本県ではマスコミを  
呼んでいただいてまして、県庁へ行くなり、せんとくんもいたからマスコミも、県民も関  
心持っていただいて、そういうようなこととか、次の日は天神でチラシを配ったり、それ  
ともう一つは各地域から観光協会などの関係者に来ていただいて自分たちの魅力を自分た  
ちでアピールしていただいたわけです。単にチラシを配るのではなくて、そういうパッケ  
ージ的なもので押したところ、成果はそれは観光客にどうつながるかは、またこういうの  
を続けるというのが大切だと思いますので続けていきたいと思えます。できましたら、表  
敬訪問などの機会もいろいろ計画もしますので、例えば、議員の県外調査にあわせてこう  
いう活動をしているのも見ていただきたいと思います。

実はあその後、熊本県から燈花会と連携してまして、それも今後、熊本県とも連携、九州  
新幹線が開通したという観点で先日はああいうプロモーションしたわけですが、そういう  
ことで積極的に進めていきたいと思えます。

それと、旧耳成高校跡地の観光施設ですが、これはJAと幾度もなく打ち合わせをして  
おりまして、平成25年4月のオープンに向けてやっております、その打ち合わせの内  
容と詳細については担当課長から説明をさせていただきます。以上です。

**○村上ならの魅力創造課長** JAならけんからは、滞在を促進する観光情報の発信基地と  
あわせて、そこでも地場産品等の紹介、販売も行う観光情報発信施設としての提案を受け  
ております。現在のところ、5月以降、連絡調整会議として8回、観光案内所単独の打ち  
合わせ会議として2回、合わせて10回、JAと県とで打ち合わせを続けているところで  
す。県といたしましては、中南和東部地域へ向けての滞在観光を促進するため、各地域の  
観光を一元的に提供していくことで交流の促進を図っていければと考えております。中南  
和東部の各市町村にも運営に参画していただくなど、情報の提供をいただくことで継続的  
な案内機能の充実を目指していきたいと考えております。いずれにいたしましても、提案  
いただきました案をベースにJAと県が協議を深めてまいります。今後とも、県が主体的  
にJAと共同していく中で知恵を出し合いながらよりよい観光情報発信施設となっていく  
よう取り組んでいくつもりでございます。

観光客の増減でございますけれども、観光動態調査がまだ現在、正確な数値をつかんで  
いるわけではございませんけれども、3月11日の東日本大震災以降、当然自粛で落ちた  
わけでございます。しかしながら、ゴールデンウィークはほぼ例年どおりの客室稼働率に

なつたと聞いております。夏も昨年の燈花会期間中はほぼ満室で100%近い稼働率だったと聞いておりますが、ことしは80%程度の稼働率だったと。特にことし多かったのは、1日前、2日前の急な予約が多かったと。前もつての予約が非常に減つたとは伺つております。さきの台風12号以降、ホテル組合を通じて調査をやらせていただいたところによりますと、約7,000万円以上のキャンセルが出ていると。これにつきましては、すべてのホテル、旅館から回答があつたわけではございませんので、これを大幅に上回るキャンセルがあるとともに、風評被害等によりまして新たな予約が非常に厳しい状況であるとは伺つております。そういうことから、先ほどの観光局長がご説明させていただきましたプレミアム商品券等の企画につながつたわけでございます。以上でございます。

○中山観光局長 先ほどの答弁の中で修正を一部したいのですが、先ほど熊本県庁と言ひあましたが、福岡県庁に表敬訪問行きました。それともう1点、ちょっと追加ですが、このパッケージということですが、全国には奈良県の出身の方がたくさんおられまして、そういう観点で、今後、観光プロモーションというのは、地元を愛する方というのが全国におられますので、そういう方とも連携をとつてプロモーションを進めていきたいと。東京県人会でもたくさんの方が集まりますので、そういうのをあわせて実施していきたいと思ひます。どうもありがとうございます。

○神田委員 はい、どうもありがとうございました。

まずプレミアム旅行券ですが、奈良県内で行く人は少ないということですが、これは多分遠慮しておられるのではないかと思ひます。他府県に来てもらった方がいろいろな面でいいのかと。私たちもそういう思ひを持つていたのでこういう質問をするのです。県民性からしたらひょつとしたら遠慮、先に他府県の人に使つてもらつた方がいいと思つておられるかもしれませんので、これを聞いて少しPRしてみようかと思ひます。

あと、九州の主要都市プロモーションですが、今後とも続けるということで、そうして奈良県で生まれ育つた人が各地域で活躍をされているというのもたくさん聞かせてもらいますので、そういう人たちにも奈良県をしっかりとPRしていただいて、観光客を誘致するというのも大変重要な活動かと思ひますのでしっかりと頑張つてください。私も熊本県にも行つたけれど、熊本県庁で会つたのかなと思つていたので、福岡県ですごく頑張つてくださつていたので、今後とも頑張つてほしいと思ひます。

それから、旧耳成高校跡地の件ですが、観光について本当はもう少し詳しく考へていることが聞けたらと思つたのですが。JAとの協議が10回ほどという中で、前向きに進ん

でいる、具体的にここはこうするという事はまだ発表することはないのでしょうか。

それと、ちょっと名前を忘れたのですが、旧耳成高校の校舎のそばに何かちょっとハイカラな建物があるのですけれども。その建物の名前を知っていたら教えてほしいけれど、それを何かうまくつかえたらと思うのですけれども。JAとの協議の中で具体的にこういうところはこうしよう、観光の拠点地としてはこうやってというようなことがあればと思ういます。それらについてもう一度。

**○中山観光局長** 今の旧耳成高校跡の観光案内所ですが、具体的には、あの地域が中南和地域のゲートウエーということになりますので、中南和地域を支点にした、要はリアルタイムな観光情報発信できるような機能を持った観光案内施設が必要だと思います。コンシェルジュといいますか案内の方を配置して、具体的にそのときに南の方へ行きたいとか、明日香村に回りたいとか、桜井市へ回りたいとかいろいろおられますので、それを具体的に面談で案内できるようなものにしたいとは考えております。

それと、もう1点、旧耳成高校跡にハイカラな建物って、ちょっと私知りませんので、すみません。

**○辻本総務部次長** 管財課が旧耳成高校跡地の整備の関係を主管してますので私の方から。

旧耳成高校のあの建物はクラブハウスと言いまして、クラブ活動の拠点というか着がえをしたりそういうことで使っていた建物です。JAからの提案の中では特に使用するという提案はございませんでしたが、中には調理室とかできるところもありますので、今後、また活用の提案というか事業を進めていく中で何かあれば使っていただけるのかと思っています。以上です。

**○神田委員** やはり言ったら具体的に出ました。ありがとうございます。

そうなのですね。クラブハウスは校舎とはちがった雰囲気、使いようによっては観光客を呼べるようにならないのかという思いもしていますので、またこれから検討していただきたいと思います。

この旧耳成高校跡の利用ということで、中南和地域の農業の振興、そしてまた観光、いろいろな面で起爆剤になるようにと期待もしていますし、また、地元の人間の一人としてこれを何とかすばらしい施設になるように、できることはしっかりとまたやっていきたいと思っております。

そういうことで、さきほども言いましたけれど、福岡県の道の駅、伊都菜彩というのですけれども、これは年間34億円だったか、すごい収入もありますし、和歌山県にはめっ

けもん広場というのがありまして、その伊都菜彩の主任をしている人がめっけもん広場に修行に行ったと言っておられました。こういうJA関係ですばらしいつながりもあるし、この旧耳成高校跡、是が非でも、みんなが期待しているすばらしいものになればと思っておりますので、このことについては知事の肝いりでもありますし、総括の中で知事へもお願いやら、またお聞きしたいこともありますので、そこでも知事に質問させていただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

○安井委員長 和田委員の方から、何か漏れていたのですか。

○和田委員 委員の皆さん申しわけございません。

発言中、記紀・万葉プロジェクトのことについて、知事に総括の中で質問をさせていただきます。そのようなことを言い漏らしましたので、あわせてお伺いしましたので、理事者側の皆さん、どうぞよろしくご理解をお願いします。

○安井委員長 総括で発言するということですね。

ほかにございますか。

○除委員 数点質問したいと思います。

今も神田委員から質問がございましたが、この補正予算の中に、南部地域復興支援のプレミアム宿泊旅行券がございますが、1万円券を5,000枚ということでございます。ふだん南部地域にはどれぐらいの観光客が来ていらっしゃるのかお伺いをしたいのと、5年ぐらい前、東京のiセンターに行きましたときに、関東のお客様が奈良県に来るのに白浜空港から入られて、多分奈良県にも来られるためにそうしたルートを使っていらっしゃるというお話を聞いたのですが、これは、現在そういう商品化が行われているのかどうか、5年ぐらい前の話ですので、ここで確認をしたいと思います。プレミアム商品券を買ってきていただくのですが、どこから入るんですか。今迂回路も整備されたとは聞いておりますが、まだ一般車両は入れないかと思えますし、12月から利用していただく分ですが、どういったところから行くのかということをお伺いしたいと思います。

会議等開催支援事業ですが、参加者20名以上で会議をされた場合に補助があるということですが、そもそもそういうところで会議をするということが私たちのイメージにはなかったのですが。会議ができる場所があれば、どんどん行ってみたいと思うのです。おっしゃったように、私たち同じ奈良県に住んでいますが、十津川村へ行くよりも東京へ出た方が時間的には早いですから、私も生まれてからウン十年ですが、今数えてみても十津川村に行ったのはまあ10回ぐらいかと。世界遺産になったときに、奈良県議会か

らもバス1台を出していただいて小辺路を歩きましたが、今、小辺路はどうなっているのかと思っているのです。1時間ぐらい、つえを持って頂上まで登ってすごく楽しかったですが。あと昴の温泉に入りましてお食事をしてという、いまだに忘れられなくてもう一回行きたいと思っているのですが。今はどうなのかとったりしています。

ある意味奈良市内からだと北の端から南の端まで遠いのですが、奈良県内にそういったいいところがあるということで、まあ何度も行きたいとも思っているのですがなかなか、何で行けばいいのかとしたり、もちろん車でスムーズに道が通ればまた景色も眺めながら楽しみながら行きたいとは思っているのですが。今、復旧はされたところですが、どういった手段で入るのでしょうか。お伺いしたいと思います。会議ができる場所というのもどういうところがあるのか、具体的に教えていただきたいと思います。

それと観光ということで、奈良市にずっと住んでおります。きょうも朝奈良公園を歩いておりました。そうしたら雨上がりの歩道で緑がきれいで、シカもおりましたし、まあ何てすばらしいのかと思いつつながら歩いていたのですが、県庁の職員は毎日そういう思いで歩いておられるのかとうらやましく思っているのですが。

やはり観光資源というのはたくさんあると思います。犬も歩けば棒に当たるではないですが、ともかくそこらじゅうに神社仏閣、知らないだけでひょっとしたら歴史があるそういうところは、本当に奈良県内にはたくさんあります。その観光資源を楽しんだ後の食事とか宿泊とか、それからその観光資源を楽しむための交通手段とか、そういったものも伴って、あとは欲を言えば温泉とか観光資源の後で楽しむと、そういうものがあれば満足していただけるかと思っているのですが、まだまだ食事するところも奈良らしい、奈良にふさわしい雰囲気の良い店は、少しずつはできているのですが、まだまだ少ないかと思っています。

例えば平城宮跡、去年はボランティアで5月に4日間出ました。それも生まれてからウン十年間なりますが、考えてみると私は奈良市立三笠中学の校区でしたから、そういう中学時代とか若いときは自転車で横切ったりはしましたが、大人になってからは平城宮跡に何回行ったかと思いついてみると、町内会の桜を見るために4月に1回行ったかな。そしてボランティアで4日出たかな。去年は何人かお客さんが来たので数回行ったかと思って、平城宮跡にはそんなに何十回も行っていないです。もちろん車で毎日ぐらいのようにその周辺を回っております。若草山が望めて平城宮跡から若草山の角度はもう最高でもう本当に奈良に生まれてそういう景色を見れるということにすごく喜びを感じています。

その平城宮跡ですが、去年はイベントをやっていたから行きましたけれど、行きたいのですが気軽には行けません。構えてきょうは歩くぞと置いていかないと行けないです。駐車場も中にはつくっていただいておりますが、そこからいずれにしても大極殿に行くのに歩いていかなければなりません。気軽にもうちょっと散策を兼ねて、歴史館と大極殿、あともう一つ文化財研究所がありますので、そういったところを結ぶ何か手段があればもう少し気軽に行けるのかと思っています。その周辺に食べるところもあまりございませんので、そういうところもできてほしいと思いますし、昔、池がございましたが、そこに四川料理の店がございました。汚い濁った池でしたけれど、そういう食事をするところもあって、まあ1軒しかございませんでしたけれども、まだよかったかと思っているのです。今はもう風情のあるところはどこもないです。そういうのがもっとできてほしいと、整備ということでその周辺、県としても整備をされますが、まだ10年単位、20年単位の計画でございますし、平城宮跡は去年はにぎわいました。リピーターがどれだけ来ていらっしゃるのかと思ったり、まあことしは3・11といろいろなことで当然観光客全体に平年より減っているのですが、どうなのでしょう、平城宮跡。素晴らしいところですが、行きたいのですけれどなかなか気軽に行けないので、気軽に行けるような平城宮跡にしたいのですけれど、いかがでしょう。

○中山観光局長 委員よりご質問がありました。観光資源は豊富だということで課題が食とか交通、買い物ということだと思いますが、奈良県は、歴史文化資源が世界一流ということで、一つだけよかっても観光客は満足度を高められないということは十分認識しております。総合的にいろいろなものを高めていかなければならない、そういう取り組みが大切だと思います。

その中で、今県として進めていますのは、いろいろなイベントを進めながら官民連携で、県が音頭をとってやっていって、そういうイベントの中で課題、問題点を発見して改善していく取り組みが大切かと。その一番の大きいものとしましては平城遷都1300年祭だったわけですが、奈良マラソン、平城遷都1300年記念事業協会にいるときに実行委員会の立ち上げに従事していたわけですが、今おっしゃった課題にあります食、宿、交通、そういういろいろな関係者に参画いただいて奈良マラソンを実現するためにいろいろな改善をみずからしてきたと。そういう観点で、先日も国際会議・国内会議誘致本部、これも知事が本部長で官民連携ということで関係者が皆入って、国際会議をするにはどういところが不足しているか、満足度を高めるにはどうしたらいいかとか。また、ことしの3月

には、巡る奈良実行委員会、これは対外型周遊観光を実現するためにということで設立しました。

最後におっしゃった平城宮跡は、平城京天平祭というのを春と夏にしましたが、秋については、台風12号の関係で被災者の心情も配慮して行わないことになりましたが、そういう平城宮跡も活用することによって整備も進む、何かすることによってやっていくと。ほんで、平城宮跡の場合は五者会議といいまして、国土交通省、文化庁、奈良文化財研究所、県、奈良市の会議が8月に始まったばかりで、積極的に活用していこうという観点で整備も進んでいくという。その中で、今おっしゃっていただきました平城宮跡へ行きやすいようにとか、手段とかが向上していくのかと思ひまして、具体的な行動あるのみと思ひます。

あと、プレミアム宿泊旅行券、会議支援については担当課長から回答させていただきます。

**○村上ならの魅力創造課長** プレミアム商品券と現在の交通アクセス状況とを含めてご説明させていただきます。

まず洞川温泉につきましては、大型観光バスが通れないことから、役場の駐車場に大型観光バスをとめ、そこに旅館のマイクロバスで送迎いたしましておりまして、現在、宿泊に関して通行の支障はございません。ホテルのせ川も9月13日か15日かどちらの日か忘れましてすけども、再開したということを知っております。

十津川村につきましては、マイカーは玉置神社を迂回して通れるらしいですけれども、先日、十津川村観光協会長の田花会長の新聞記事が出ておりましたが、崩落の危険性もあり、あえて来てほしくない、もうちょっと待ってほしいということでプレミアム商品券も十津川村を指定しているわけではないですけれども、準備の段階で、十津川温泉が例えば20軒あれば20軒につきましては一覧表にして、交通事情によってお泊まりできない場合がありますので直接ご確認くださいという文言を入れさせていただきたいと考えております。

今、このエリアについて、どのぐらいの宿泊があるのかということでございますけれども、五條市、宇陀市、宇陀郡、それから吉野郡、それから洞川エリア、東吉野村も若干ありますけれども、そこ大体9月の台風12号の被災以降来年3月末の期間で延べ6万6,000人泊と、2泊されますと2名で勘定しておりますので、6万6,000人ではございませんけれども、約6万6,000人泊の方がとまられているということでございます。



最大は吉野山でございますけれども。そのような状況でございますして、十津川村を除くところが営業を再開しているわけですが、今後、新たな宿泊が入らないとかキャンセルが多数出たという状況がございますことから、このプレミアム宿泊券の企画につながったわけでございますので、ぜひともお買い上げいただければと考えております。以上でございます。

**○山下ならのにぎわいづくり課長** 会議開催支援事業につきまして、そもそも会議開催場所があるのかという質問でございますけれども、この会議開催支援事業、要件としては、20名以上、それから宿泊を伴うものということでございますが、南部地域ということで宿泊場所同一町村区域内ではなくても、南部地域内でありましたら活用していただけたらと考えておりますので、例えば、大淀町の文化ホールで会議をしていただいて、天川村洞川温泉に泊まっていたかといったような場合についても支援をさせていただきたいと思っておりますので、会議開催場所としては20名以上ということでございますので、それほど形式張った会議でなくても、例えば各種学会の事前の打ち合わせ会議であるとかそういったものも含めて対象にしたいと考えておりますので、一定規模の場所があれば開催をしていただけるもの、そういったものに支援をしていきたいと考えております。

**○田中地域振興部長** 論点がちょっと違うかもわかりませんが、小辺路のことがございましたので。

9月27日に小辺路を踏査してきまして、15カ所ほど崩落しているところがございました。ですから、今は通行どめになっております。ただし、小辺路とか、それから下北山村から上がってくる玉置神社への果無峠とか、果無峠では、80歳半ばのおばあちゃんが若い人を招き入れて地元でとれた野菜を持って帰りという感じでしております。非常に遠いのですが、遠いからこそ地元の人と触れ合えるような場があります。年齢差を超えた交流も生まれてきています。不幸な出来事が今起こっていますので、そういった方々の支援のためにも、委員も10回といわず、20回、30回、先ほどのプレミアム宿泊旅行券は県民でも買えますので、できれば買っていただいて皆さん方で利用していただければありがたいと。世界遺産を担当している部署ということで若干答弁させていただきました。ありがとうございます。

**○除委員** 南部地域を応援しようということでのプレミアム宿泊旅行券でございますが、復旧の方、安全が確認されることがまず第一だと思いますので、安全が確認されれば多くの人に南部地域に入ってもらえるよう私もまた行かせていただきたいと思います。

平城宮跡に気軽にというところは、いろいろと検討されているということでございますが、何かできるところからやっていただければありがたいかと。かごでもいいですし、奈良公園を走っているようなものでもいいですし、何かそういうものがあればもう少しけるのかなと思ったりしているのです。これは私の思いつきかもしれませんが、できるところから本当に気軽に何度も来ていただけるようにということをお願いをしておきたいと思っております。以上です。

○太田委員 少しテーマが変わりまして、ことしの4月から地域支援員という制度ができて、市町村振興課で今7名で構成されていると。この地域支援員というのは、市町村のさまざまな問題や悩みといったものを解決するために配属されたものと認識しております。平野部といいますか大和高田市などもそうですけれども、財政難といった課題とかも抱えておりまして、実際にこの制度ができてどんなアプローチされているのかと、実際まだ1年たっていないのですけれども、どういう取り組みをされているのかについてお伺いをしたいと思います。

○高野市町村振興課長 地域支援員のお尋ねでございました。

我々、市町村の支援をするためには、県が地域のニーズや課題を正確に把握しまして、その上で市町村と協働して課題解決の方策を検討するという取り組みが非常に重要かと考えております。先ほどおっしゃいましたように、そういったことを考えまして、本年度から7名の地域支援員を設置させていただきまして、そのうち市町村振興課にいます3名が北西部、いわゆる平野部の担当をさせていただいております。市町村長やそれから市町村職員と足を運びまして密接に連携調整を行いまして、地域のさまざまなニーズや課題と一緒に議論させていただいているところでございます。

結果というか、この上半期でございますけれども、各市町村を訪問させていただきまして把握した要望とそれから課題と、非常にたくさんさまざまな分野でございますけれども、代表的なものとして、国民健康保険の広域化へのご意見だとか、それから鳥獣被害が増加する中で対策の広域化だとか、それから電算システムの共同化の効果とその必要性といったような、市町村の連携に関するような話であるとか、道路や河川整備の整備要望、それから、デマンドタクシーやコミュニティーバスなどの導入に関する支援といった、要するにインフラ系の話ということとか、さまざまなお話をいただいております。これらの課題をテーマや地域ごとに整理いたしまして、県庁内各部局とも連携しながら対応に向けて進めている状況でございます。

○太田委員 先ほどご答弁いただきました中で、地元の首長から直接ご要望を聞いていただいて、調整を図っていただくということは、本当に財政難ということもありましてなかなか新たな事業の展開ができないというときに、県が支援することによってその後押しをするといった点でも非常に有意義な取り組みだと思っております。コミュニティーバスでも地の利の条件とかもありますけれども、うまくいってるところといていないところと、こういういろいろな例がありますので、成功事例をそういうところに当てはめるといいですか、共有をしていただいて、本当に市町村がうまく回っていくために力をかしていただきたいと思っております。

先ほど、幾つかお話がありました中で電算システムの話がありましたので、電算システムの委託管理料は、もう本当に恐らく市町村の議会の中でなぜこんなに高いのかと議題になっているかと思うのです。例えば、大和高田市で言いますと、一般会計と特別会計を合わせまして、平成20年度には3億3,900万円かかっていたということです。これに対して何とかならないのかという意見もあって、コンサルタントを入れて平成23年度には2億5,700万円まで落としたと。それでも、またこれから制度がどんどん変わっていくたびに、例えば国民健康保険料とか介護保険料がかわっていくたびに電算システムをかえないといけないと。要は、その管理費用は市町村が負担しなければならないということに対しては、本当に不本意といいますか、各市町村では、なぜ国が変えた制度に対して市町村が負担しなければならないのだという意見はあるかと思うのです。電算システムの共有化を、ぜひ図っていただいたら、各市町村の負担が少しでも和らぐのではないかと思っております。

これは、クラウドコンピューターというシステムが今言われているのですけれども、これはサーバーを庁舎に置くのではなくネット上に管理をして、データはまた別の箇所にあると。この利点は、単にコストが安くなるだけではなく、東日本大震災で庁舎そのものが崩れてしまうと。今回、台風12号で災害があつて、庁舎のところでは被害はなかったように聞いているのですけれども、もしそういったことが起こったときにデータそのものが飛んでしまうと、これは本当に市町村の大事な財産でございますから、これを守っていくというのも県としても支援をしていただきたいと、経済的な面と、あと安全性、これはひいては住民の命を守ることもつながるかと思っておりますけれども、そういう点でぜひ取り組みを進めていただきたいと思っておりますけれども。専門的に進めていくとなりますと、また課も違ってくるかと思うのですけれども、もしこの点でどのようにお考えなのか、考

えがあれば教えていただきたいと思います。

**○高野市町村振興課長** 電算システムに関しましては、費用面とクラウドの関係でというお話がございました。

費用面につきましては、確かに大和高田市で随分と節約をされたという話を私も直接市長からお聞きいたしました。その点につきましては、大和高田市では大和郡山市と御所市とまずは連携しまして、そのシステムの共同化及び再構築を進めておりまして、この事業に関して、県といたしましても活力補助金というのを活用しまして支援をさせていただいております。

この事業自体は、基幹システムの再構築における共通の仕様書を作成するという点で、その各市町村の導入コストを下げるということがまず行われておりまして、その面で非常にコスト削減に役立ったと思っております。それだけにとどまらず、互換性の向上が図られてきて、将来的には、委員お述べの電算システムの共同化にもつながっていくものと考えております。

クラウドの件でお話ございましたけれども、現在、県で奈良モデルという取り組みを進めておりまして、その中におきまして、現在、香芝市を中心といたしまして7市町でクラウドを活用したシステムの共同化というのが検討されておりまして、そこで専門的な技術的なことも検討されまして、それで一定の成果を上げてきているところです。こういった取り組みがございますので、県としても、その取り組みの成果を他の地域にも波及させていくという形で進めていきたいと考えております。以上でございます。

**○太田委員** 詳しくご説明いただきましてありがとうございます。

これは、本当に共通する市町村の悩みだと思っておりますので、うまく県でまとめていただきたいと思っているのですけれども。

先ほど補助金のお話ございましたので、これは電算システムを共有化すると、何か出どころはどこでいくらぐらいの補助金が出るのか、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

**○高野市町村振興課長** 補助させていただいた内容をちょっとご説明させていただきたいと思っております。

まず、システムを導入するために共同の仕様書をつくることで同じ一体となって連携しながら発注しますので、それでまずコストが下がることを目指すために、この事業自体は共通の仕様書をつくと、これを先ほど委員もおっしゃったコンサルタントに委託しまし

て仕様書をつくるという作業をいたしました。そのコンサルタントの委託料につきまして、我々市町村振興課で所管している活力あふれる市町村応援補助金という制度がございまして、それで補助をさせていただいたと。実績としまして、平成22年度に500万円の補助をさせていただいております。それから平成23年度、これは決定額でまだ支払われておりませんが、今年度770万円の補助を決定させていただいたということでございます。

○太田委員 先ほど補助金の額も教えていただきまして、この取り組みを進めると補助金もつくコストも削減できると、本当にメリットがたくさんあると思いますので、ぜひ市町村のところにも積極的に働きかけていただきまして、そもそもの構築していった会社とかも違うと思いますから、それを共有するというのはいろいろな壁もあるかと思うのですが、特に同じメーカーのところでしたら、それで共有化を進めていただけて取り組みを進めていただきたいと思います。

○田中地域振興部長 具体的なことへの答弁は、今、高野市町村振興課長からお答えしました。市町村支援員は7名おります。市町村長サミット、市町村長と知事が同席して話す会合などが年間数回行われております。それは直接お話しします。その回数をふやすというような感じで考えていただければいいと思います。知事の代理で市町村支援員が行って、今委員からご質問があったようなそういう新しい活用の制度とか、そこで直接こちらからご提案できます。例えば市町村7名ですから地域を区切っております。地域共通の課題などもございます。そういうような課題を解決するには、先進的な取り組みをしている市町村もあれば、そういう情報を仕入れてこういうのがありますとか、それから県や国でこういう支援制度がありますとか、そういう具体的な活用方法なども話し合いができます。そういう市町村支援員をできるだけ活用することを委員方も地元でPRしていただければいいかと思います。

○太田委員 ありがとうございます。

今お話を聞かせていただきましたら、4月からこのような形を導入していただくことによりまして、うまく軌道に乗りかけていると受けとめさせていただいたのですけれども、今、幾つかの市町村を掛け持ちされている部分もあるかと思いますが、できれば市町村に1人配属していただいて、そこと県との連携をより密接にさせていただいて、今、市町村でいろいろ苦慮されていることを今後も取り組みを進めていただくように要望だけして終わらせていただきます。ありがとうございました。

○小林委員 南部地域の観光支援、今回の予算審査特別委員会の中では話題にしているところでございますが、なかなかその特効薬というかすぐに効き目のあるような取り組みというのは難しいと思うのですが、その中でもきょう説明をされました3つの事業それぞれ拝見させていただきました。プロモーション活動とそれからプレミアム宿泊旅行券と会議等の誘致、この3つです。これを見ましたら、800万円と1,500万円はまず事業としては実行されると予想できますが、最後のこの会議等の開催支援、いろいろな工夫をやっているか、やっていかなければいけないと思っています。先ほども委員からもお話があったように、目をつけて積極的にPRに行くと。その会議等の会議以外の部分が必要なので、会議を主催されている方はそういうことが該当すると思われませんか、どんどん誘致してほしいと思います。

本題に入ります。11月に予定されている全国育樹祭、これは参加される側にとってはある意味観光の部分があると思います。これ全国から集まられますので、会議というのか観光というのか、観光の側面があると思いますので、宿泊される場合は観光と言えらると思いますので。きょうご出席されている方で全国育樹祭とどのように観光面でタイアップしているか。あるいは全くしてないのかお答えいただけたらありがたいと思います。以上です。

○中山観光局長 11月に開催される全国育樹祭ですが、農林部が主体的にしているわけですが、実行委員会を設けて、そちらの方へ参画しまして情報交換を進めております。

その中で、具体的なものも10月ですが、把握してないわけですが、やはり来られる方も多いので、いろいろな情報提供、先ほどからお話ありました食とか土産とか、そういうふうな観光情報の提供は積極的にしていかなければならないと思います。そうしようと考えてます。以上です。

○小林委員 奈良ビジターズビューローもこれを把握してると思います。ですから、奈良ビジターズビューローとも連携を密にしていきたいということを要望しておきます。終わります。

○安井委員長 ほかに質疑ございませんか。

ないようでございますので、地域振興部、観光局の審査を終わります。

午後の審査は午後1時から総括審査を行います。よろしくお願いいたします。

それではしばらく休憩します。

